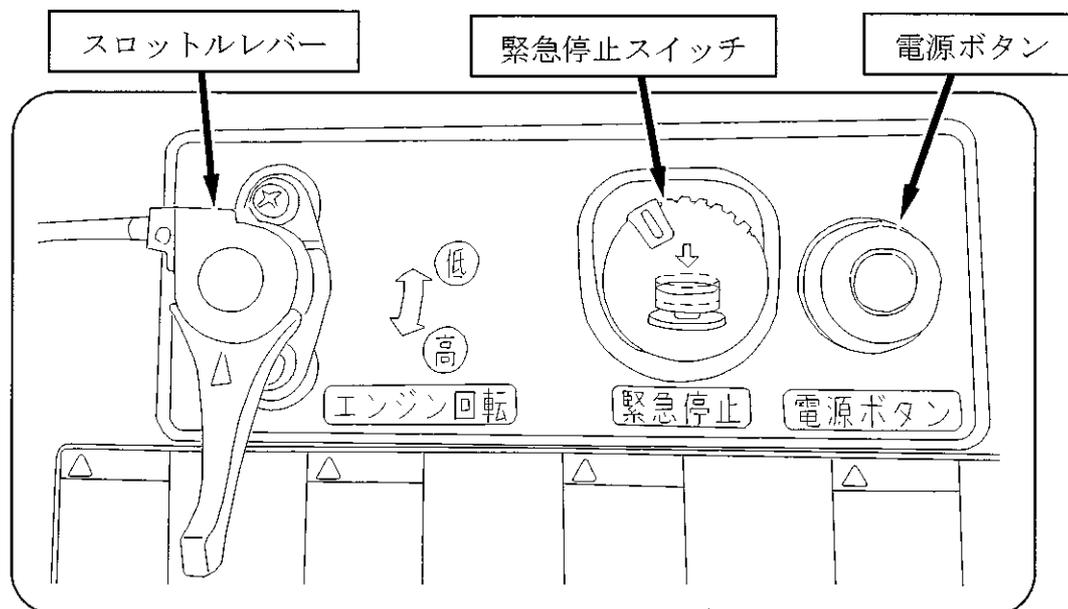


# 作業のしかた

## 運転操作の要領

### ■ 本機操作部の名称



### ■ プロポ送信機の取り扱い注意点

- プロポ送信機は、事前に充電をして、作業中に充電切れで本機が停止することのないようにしてください。
- 作業の中断等で、プロポ送信機から手を離すときは、必ずプロポ送信機の電源を「OFF」にしてください。
- プロポ送信機は、防水・防塵仕様ではありません。水に濡らさないよう注意し、濡れた際は、内部に水が入り込まないように注意して、すばやくふき取ってください。また、使用する際にはプロポカバーを必ず装着し、砂ぼこりや草等のゴミがかからない様に注意して取扱ってください。
- 作業中、プロポカバー内の水蒸気が結露して、モニタ画面が見にくくなる場合があります。定期的にくき取る等してください。
- プロポ送信機を落下させると、故障して本機の操作ができなくなる恐れがあります。必ずプロポカバーに入れ、ストラップを首からかけて使用してください。
- 操作時にレバー等に過度な力を加えると、故障する恐れがあります。適切な力で操作してください。

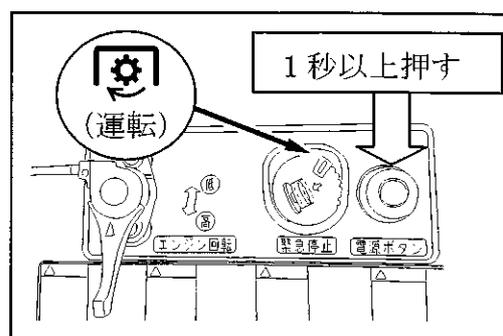
## 作業のしかた

- プロポ送信機を無操作で30分間放置していると、「ピッピッピッ……」と電子音が鳴って知らせます。何らかの操作をするか、電源を「OFF」にすることで止めることができます。
- ジョイスティックの中立位置がずれていると感じた時は、「お買いあげ先」にご連絡ください。
- プロポ送信機が故障した際、分解・修理は行なわないでください。保証・修理を受けることができなくなります。

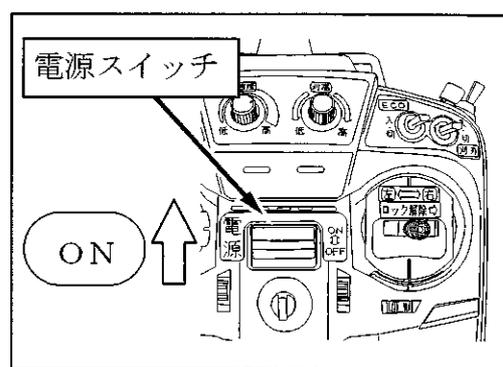
### ■電源の入れかた

- (1) 本機の緊急停止スイッチが「

本機の電源が入り、バッテリー残量計のLEDが順番に光ります。

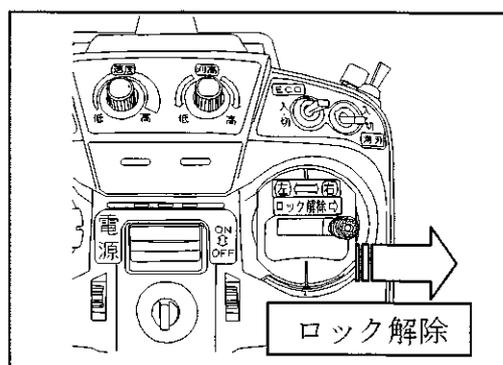


- (2) 両方のジョイスティックが中立位置にあることを確認して、プロポ送信機の電源スイッチを「ON」位置にします。



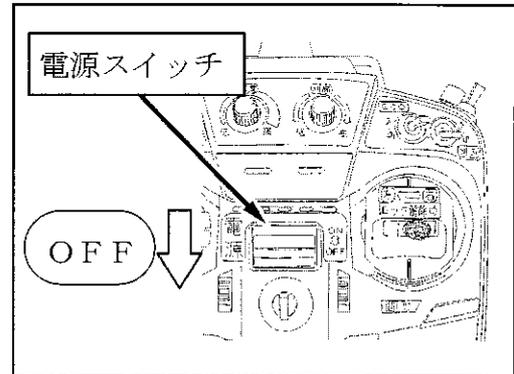
- (3) 電子音が「ピピピピ!ピピピピ!」と繰り返し鳴るので、右ジョイスティックを右に一度倒し、元に戻してください。

本機とプロポ送信機との電波通信のロックが解除され、本機の青ランプが点灯します。



## ■電源の切りかた

- (1) プロポ送信機の電源スイッチを「OFF」にします。  
青ランプが消灯し、数秒後に本機の電源が切れます。



### 重要

- 本機の青ランプが点灯していない状態で、プロポ送信機の電源スイッチを「OFF」にしても、本機の電源は切れません。
- この操作で電源が切れない場合は、緊急停止スイッチを押してください。数秒後に本機の電源が切れます（緊急時の停止のしかた：本書63ページ参照）。
- 電源OFF後、再び本機の電源をONする場合は、システム上5秒程度時間をおいてください。

## ■エンジン始動のしかた

### ⚠危険

- 意図せぬ動きをしてケガをする恐れがあります。エンジン始動時は、各スイッチやジョイスティックが安全な位置になっていることと、周囲の安全を確認してください。

### ⚠警告

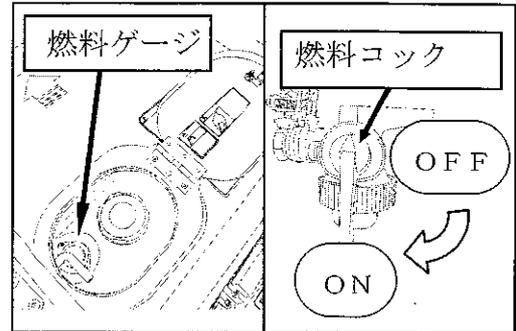
- 閉め切った屋内では、エンジンを始動しないでください。排気ガスによる中毒の恐れがあります。
- 回転部に触れるとケガをする恐れがあります。運転中、回転中にベルトやプーリ、ファン等の回転部に触れないでください。

### ⚠注意

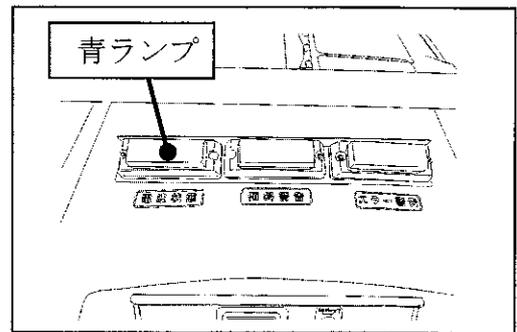
- 故障や事故の恐れがあります。絶対にセルモータ端子と12Vバッテリー端子を接続させてエンジンを始動させないでください。

## 作業のしかた

- (1) 給油口フタを開いて、燃料ゲージにて燃料の量を確認してください。  
エンジンの燃料コックのレバーを「ON」位置にしてください。

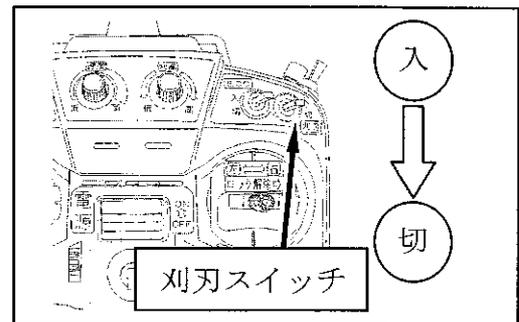


- (2) 本機とプロポ送信機の電源を入れ、本機の青ランプが点灯していることを確認してください。

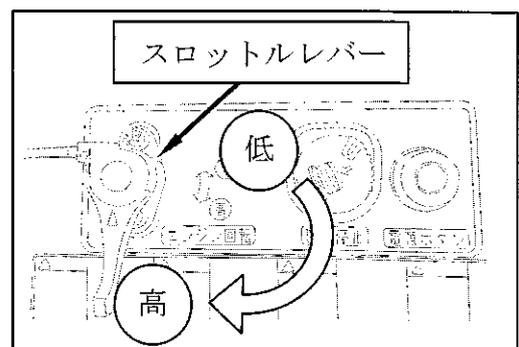


- (3) プロポ送信機の刈刃スイッチが「切」になっていることを確認してください。

- 重要** ●刈刃スイッチが「入」の状態、または「入」⇒「切」の操作直後は、安全のため、エンジンは始動しません。



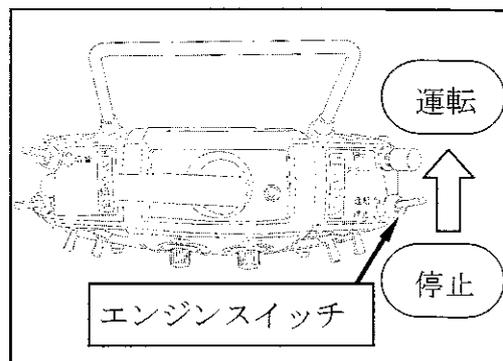
- (4) スロットルレバーを「低」と「高」の間以上の位置にしてください。



- (5) エンジンスイッチを「運転」位置にしてください。

**重要**

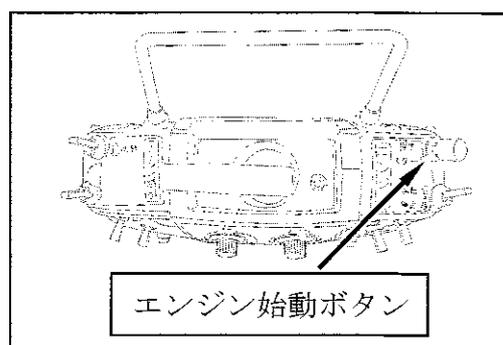
- エンジンスイッチを「運転」位置にしないと、安全のため、エンジンは始動できません。



- (6) エンジン始動ボタンを押すと、セルモータが回ります。エンジンが始動するまで、エンジン始動ボタンを押し続けてください。

**重要**

- セルモータは保護のため、5秒以上連続では回らないようになっています。
- セルモータは大電流を消費しますので、過度の連続使用は避けてください。
- 5秒以内で始動しない場合は、10秒以上の間をあけて、再度同じ操作を繰り返してください。
- 点火プラグに燃料が付着し、点火しにくくなる事があります。エンジン始動ボタンは短時間で放さず、1秒以上長押ししてください。
- 草刈作業中にナイフへの過負荷によりエンストした場合は、エンジンスイッチを操作しないで（「運転」のまま）、エンジンを再始動させてください。オートチョーク機構であるため、一度エンジンスイッチを「停止」→「運転」に操作すると、再始動しにくくなる場合があります。
- トラック運送後、または電動走行直後にエンジンが始動しにくくなる場合があります。この場合には、オートチョーク切替スイッチを「切」にして始動してください（オートチョーク切替スイッチ：本書33ページ参照）。
- 暖機運転を行なうことにより、エンジン各部へオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命を延ばします。スロットルレバーを「低」と「高」の中間の位置にして、5分程度、暖機運転をしてください。
- 特に冬期や寒冷地で作業する際は、十分な暖機運転をしてください。
- 点火プラグに燃料が付着し、点火しにくくなる事があります。本機の運送中は燃料コックのレバーを「OFF」位置にしてください。

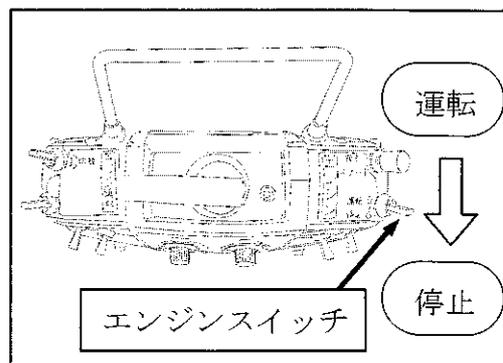


■エンジン停止のしかた

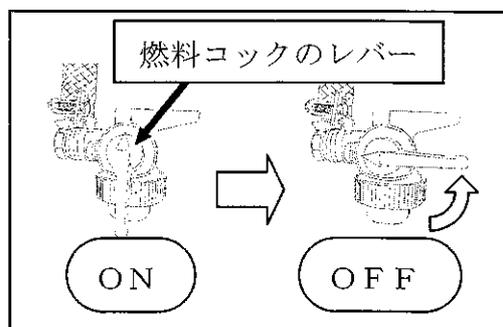
**注意**

●エンジンに接触すると火傷する恐れがあります。エンジン停止後、エンジン・マフラー等、高温部には、冷めるまでさわらないでください。

- (1) エンジンスイッチを「停止」位置にしてください。



- (2) 燃料コックのレバーを「OFF」位置にしてください。



**重要**

●エンジンスイッチを「停止」位置にしてもエンジンが停止しない場合は、プロポ送信機の電源スイッチを「OFF」にするか、本機の緊急停止スイッチを押して電源を切ってください。それでも停止しない場合は、燃料コックのレバーを「OFF」位置にし、エンジンが停止するまで監視してください。また、故障の恐れがあるため、〈不具合診断表〉（本書106～115ページ参照）を確認し、適切な処置をしてください。

## ■プロポカバー・ストラップの使用のしかた

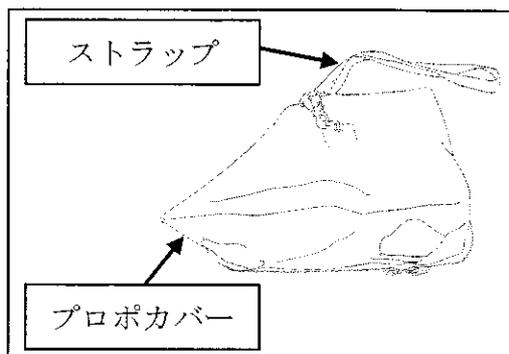
### ⚠注意

- ジョイスティック等、プロポ送信機の操作部にプロポカバーが触れて、暴走や誤動作をする恐れがあります。プロポ送信機をプロポカバーに出し入れする際は、プロポ送信機の電源スイッチを「OFF」にしてください。
- 作業者が転倒して、誤動作する恐れがあります。プロポ送信機の操作は、歩行しながらや、足場が不安定な場所では行なわないでください。

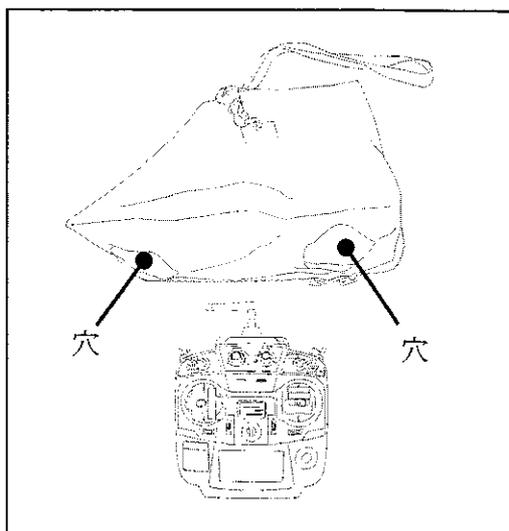
### 重要

- プロポ送信機は、防水、防塵仕様ではありません。水に濡らさないよう注意して使用し、濡れた場合は、内部に水が入り込まないように気を付けて、すぐにふき取ってください。
- 砂ぼこりや草等のゴミによる故障、誤動作の防止のため、プロポカバーを装着して使用してください。
- プロポ送信機が、水に濡れる恐れのある環境で使用する場合は、防水プロポの購入をご検討ください（注文部品の紹介：本書126ページ参照）。

- (1) プロポカバーにストラップを付けます。



- (2) ファスナー口を両端まで開いて、プロポ送信機をカバー内に入れ、ファスナー口を閉じます。



- (3) 作業の際は、首にストラップを掛け、カバーの穴に両手を差し込んで操作してください。

■ 走行運転のしかた

**⚠ 危険**

- 走行時は、本機の思わぬ動きや、転落・転倒により、第三者に危害を与えないよう、本機の状態を確認しながら運転してください。
- 転落・転倒する恐れがあります。路肩付近や軟弱地では、十分注意して使用してください。
- 障害物に衝突する恐れがあります。進行方向の安全を常に確認してください。
- 転落・転倒する恐れがあります。傾斜地では機体の傾斜角度に注意してください。オレンジ（橙）ランプの早い点滅とブザー音が同時発生したときは、走行が自動で一旦停止します。再操作し、すみやかに傾斜の緩やかな場所へ移動してください。
- 転落する恐れがあります。本機に乗車したり、本機につかまって運転をしないでください。
- 転落・転倒した場合は、火災の恐れがあります。ただちにプロポ送信機の電源スイッチを「OFF」にして、本機の電源を切ってください。また、作業を再開する前に、〈転倒後チェック表〉（本書116、117ページ）を参照して、必ず本機の点検を行なってください。

**⚠ 警告**

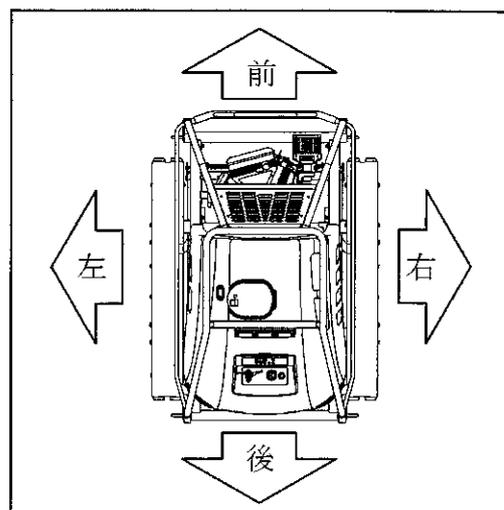
- 運転中、または回転中に回転部（エンジン・クローラ・転輪等）にさわるとケガをします。
- 転落・転倒する恐れがあります。45度以上の斜面では運転しないでください。

**⚠ 注意**

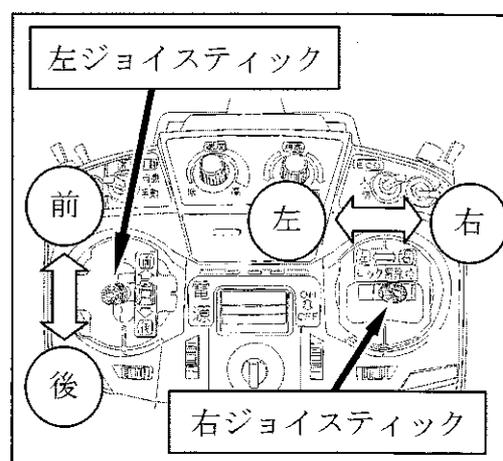
- 転落・転倒する恐れがあります。傾斜地や、地面に凸凹や段差のある所では、低速で走行してください。
- 本機やプロポ送信機は、防水・防塵仕様ではありません。雨天に使用する際は、電装品等が濡れないよう、気を付けてください。
- 本機はほ場内作業機械です。公道および公道とみなされる道路での運転はできません。
- 転落・転倒する恐れがあります。背の高い草むらの中などの見通しの悪い場所では、本機の向きや周囲の状況をよく確認しながら低速で走行してください。

## 作業のしかた

- (1) 前進・後進する場合は、左ジョイスティック（前後）をそれぞれ「前」・「後」へ倒します。
- (2) 前後進しながら進路を変更する場合は、左ジョイスティック（前後）を倒した状態で右ジョイスティック（左右）を「左」・「右」へ倒すと、それぞれそちらの方向へ進路を変更します。
- (3) その場で本機の向きを変更する場合は、右ジョイスティック（左右）を「左」・「右」へ倒すのみで、それぞれそちらの方向へその場旋回（超信地旋回）をします。



- 重要** ●車速および旋回速度の調節は、両方のジョイスティックを倒す量で行なうことができます。



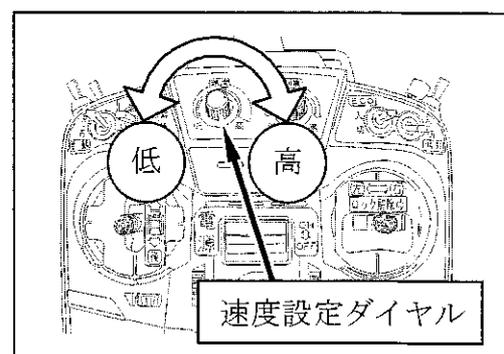
### ■最高速度の設定のしかた



### 注意

- 走行中に急な変速を行なうと、衝突や転落等、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。必ず本機を停止させて行なってください。

プロポ送信機の速度設定ダイヤルを回して、左ジョイスティックを最大に倒したときの、本機の走行速度を調整します。



## ■ 斜面補正システムの使用のしかた

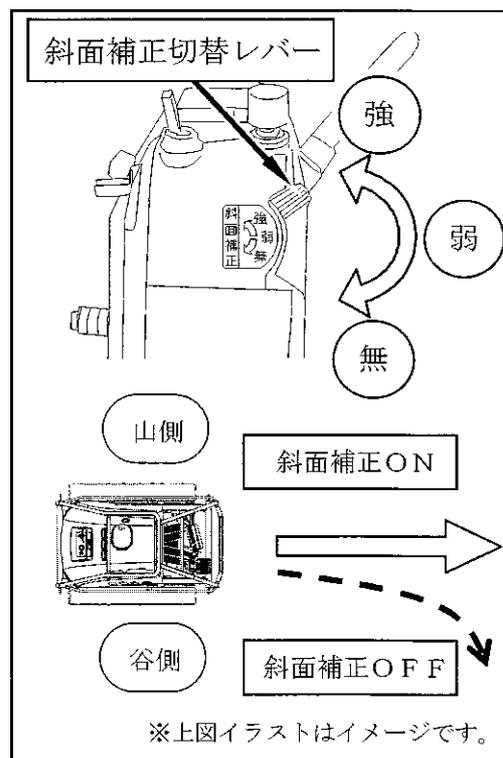
斜面補正システムを使用することで、斜面での等高線方向への走行時に、直進がしやすくなります。

プロポ送信機の斜面補正切替レバーを「弱」または「強」にすると、検知した斜面の角度に応じて、山側のクローラ速度を自動で調節し、本機が谷側へずり落ちるのを緩和します。

斜面補正の強さは「弱」・「強」の2種類から選べます。状況に応じ、操作しやすい方を選択してください。

### 重要

- 角度検知のため、斜面補正がはたらくまでに、5秒程度時間が掛かることがあります。
- 平地では、斜面補正ははたらきません。



## ■ 草刈作業のしかた

### ⚠ 危険

- 草刈作業の際は、同梱の消火スプレーを携帯してください。また、消火器も用意し、火災発生時に迅速に対応ができるよう、操作者や監視者のそばに置いてください。
- エンジン運転中は、刈刃カバーに手や足を近づけないでください。高速回転のナイフで大ケガをします。
- 作業範囲内への第三者の接近、あるいは侵入を確認した際は、ただちに本機の電源を切り、本機を停止させてください。
- 本機との距離が大きくなると、本機の動きを把握できなくなり危険です。走行運転・草刈作業は、本機の動きを把握できる範囲（30m程度）で行なってください。
- 本機が近くにあるときでも、地形・障害物によって通信が遮断されることがあります。しばらく待っても通信が回復しないときは、本機の近くに第三者を近づけないようにし、作業者は本機の青ランプが点灯する位置まで移動してください。移動する際は、手やプロポカバーによってプロポ送信機が誤作動しないよう注意してください。

## 危険

- 草刈作業中は、排気管やマフラーおよびエンジン周辺に堆積した草や木の葉、枝などの可燃物を、エンジンカバーを開いて清掃してください。そのまま使用を続けると、火災の原因となります。取り除く際は、火傷しないよう、高温部が冷めた状態で行なってください。

(エンジンカバーの開けかた：本書71ページ参照)

- 草刈作業中は、本機の前後には立たないでください。刈った草や石等が飛散することがあり大変危険です。また、本機の前後以外に立つ場合でも、草刈作業中の本機からは5メートル以上の距離を確保してください。

## 警告

- 本機の角度が40度を超える傾斜では、オレンジ（橙）ランプが点滅します。そのときは低速で十分注意して走行してください。
- 草刈作業中は、石や木の枝、針金、空き缶等の異物が飛散し、周囲の人や動物、農作物、建築物、自動車等へ被害を及ぼす恐れがあります。作業前に異物は取り除き、草刈作業中も異物が刈刃カバー内に入らないよう、安全に十分注意してください。
- 作業中は、作業員以外の人（特に子供）や車両等を近づけない様にしてください。必要な場合には、草刈作業中である旨の立て札や、ガードロープを張る等してください。障害事故の原因となり大変危険です。
- 操作ミスや、作業員の転倒等の恐れがあります。本機の角度が45度を超える傾斜地や、地面に凸凹や障害物の多い場所、軟弱な路肩等、不安定な場所での操作は行なわないでください。
- 堅い草や、笹、雑木等に乗りに上げて、転倒する恐れがあります。傾斜が緩い場所でも、このような条件の場合は、低速で十分注意して走行してください。
- ナイフにからみついた草や針金、その他異物を取り除くときは、必ずエンジンを停止し、ナイフの回転が止まっていることを確認してから行なってください。
- 意図せぬ動きをする恐れがあるので、本機の走行部（転輪の軸等）への草等の巻付きは、取り除いてください。
- 作業前に、ナイフに欠け、割れ等の異常がないことを、必ず確認してください。

## 警告

- 草刈作業中、縁石や切株等にナイフが当たり衝撃があった場合には、すぐにエンジンを停止し、ナイフ、ナイフステー及び締付けボルトに曲がりや割れ、摩耗が生じていないか点検し、異常があればただちに修理をしてください。修理をしないまま作業を再開すると、思わぬ事故につながります。
- ナイフ同様、ナイフステーも消耗します。曲がりや割れ、摩耗等が認められない場合でも、100時間使用、もしくはナイフ2回交換ごとのいずれか早い方で交換してください。

## 注意

- 作業の際は、作業衣として、長袖の上着と裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴、帽子またはヘルメット、保護メガネを必ず装備してください。
- 木の下で作業を行なうときは、木の枝等にエンジンカバーの窓部が引っ掛かり、機体が損傷を受けることがあるので注意してください。
- 溝や障害物等に進路を塞がれる、クローラの石かみが発生する等の状況で、本機が前進、または後進ができなくなることがあります。その場合は無理に動かさずに、動ける方向から脱出を試みてください。無理に前進、または後進させると、走行モータの焼付き等、故障の原因になります。
- 切株や大きな木の根、地面の大きな凸部等に乗ると、クローラが浮いて移動できなくなることがあります。走行モータ破損等の原因となりますので、そういった地形を確認したら、できるだけ避けて走行してください。
- 自走での脱出ができなくなる恐れや、電装品への浸水により故障に至る恐れがあります。車輪が半分以上沈む様なぬかるみや水たまりの多い場所では作業を行なわないでください。

## 作業のしかた

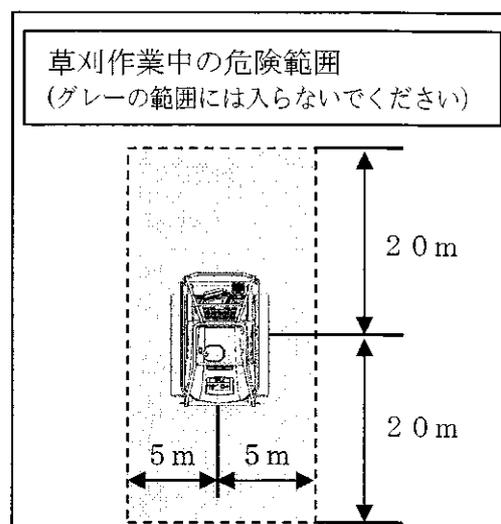
### (1) ラジコン操作のポイント

- 使用可能な最大傾斜角度は45度です。エンジン保護、およびバッテリー液漏れ防止のため、傾斜を平行に走行する場合は、最大傾斜45度以下、垂直に上り下りする場合は、25度以下で使用してください。

傾斜角度	平行 (等高線に平行)	垂直 (上り下り)
0~25度	○	○
25~45度	○	×
45度を超える	×	×

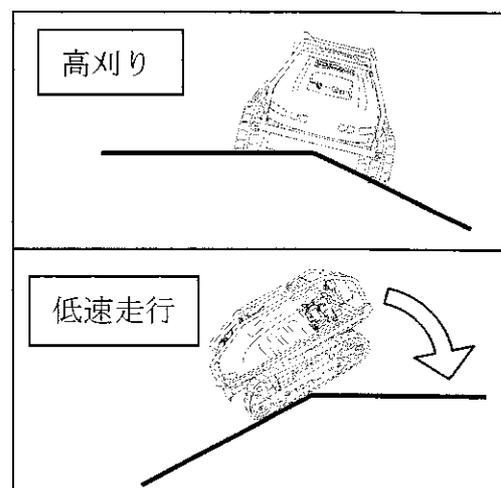
- 左右傾斜角度が45度を超えると、危険であることをお知らせするため、走行中の本機が一旦停止します。この場合、両方のジョイスティックを中立に戻すと、再び操作可能となりますが、そのまま急傾斜地（45度を超える）を走行するのは危険です。ただちに作業を中断し、安全な場所へ移動させてください。

- 本機の後方に立って操作すると、進行方向等がわかりやすく、操作しやすくなります。ただし、刈った草や石等が飛散することがあり大変危険なため、草刈作業中は右図のグレーの範囲には入らないよう注意してください。



- 本機の前側から走行操作をする際は、操作の方向と本機が動く方向が逆になり、意図せぬ動きをさせてしまうことがあります。

- 平地と斜面の境目（稜線部分）での草刈作業時は、刈高さを上げて行なうと、石の飛散やナイフの摩耗を抑えられます。



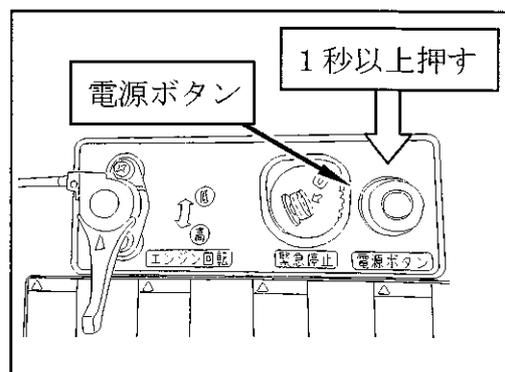
- 斜面を上りきるときや、段差を越えるときの着地による衝撃で、安全機能がはたらい、本機の電源が切れることがあります。そういった場面では低速で運転してください。

## 作業のしかた

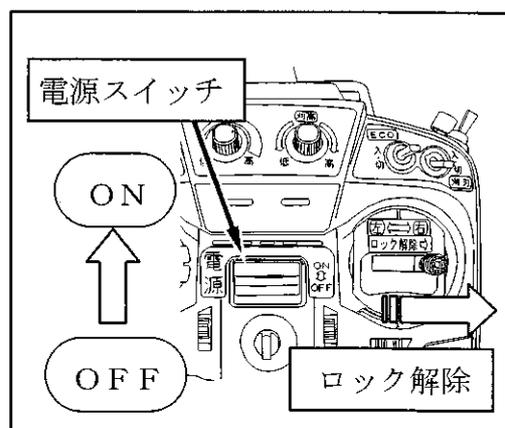
- 斜面に平行な方向で草刈作業をする際、長時間、本機の同じ側のクローラを斜面の下側にして運転していると、片側の走行モータの過熱エラー（〈警報・エラー表示一覧表〉：本書 118, 119 ページ参照）が頻発することがあります。その場合は、本機の電源を切り、10分程度時間をおいてから再開し、ときどき本機の向きを入れ替えながら草刈作業を行なうと、頻発を抑えられます。
- 急傾斜での登坂が難しいときは、斜面に対して左右に切り返しながら斜めにジグザクに上ってください。また、最高速度設定を最大にすると走行モータの出力トルクが最大になります。走行バッテリーの残量が少ないと、走行モータの出力トルクが小さくなることがありますので、その場合はエンジンを始動して、走行バッテリーを充電しながら使用してください。
- 斜面走行から平地走行に移る際には、走行速度が速くなります。周囲の安全に十分注意して操作してください。

### (2) 草刈作業開始の手順

- ① 電源ボタンを1秒以上押して、本機の電源を入れます。

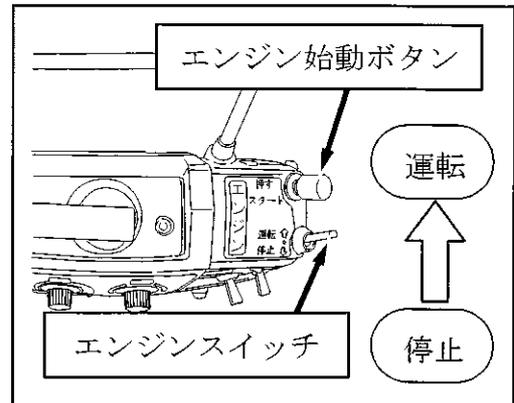


- ② プロポ送信機の電源スイッチを「ON」位置にして、ロックを解除し、本機の青ランプが点灯するか確認します。

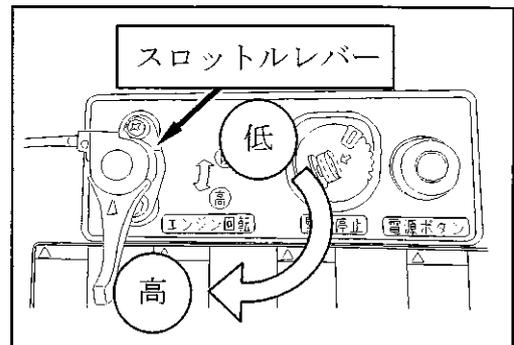


## 作業のしかた

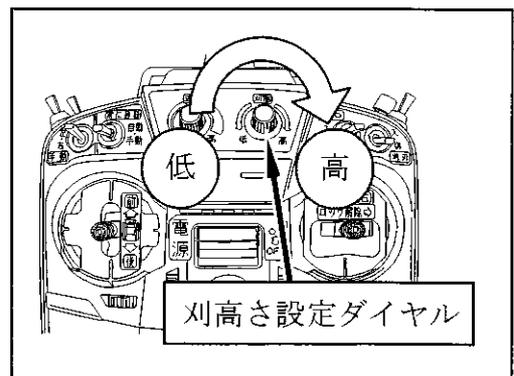
- ③ エンジンスイッチを「運転」位置にし、エンジン始動ボタンを押してエンジンを始動します。



- ④ スロットルレバーを「高」側へ動かして、エンジン回転数を高くします。

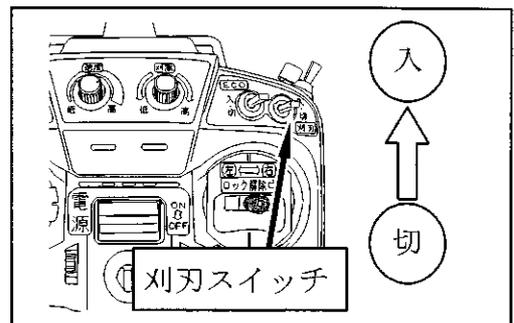


- ⑤ 刈高さ設定ダイヤルで刈高さを最高に設定します。



- ⑥ 刈刃スイッチを「入」にすると、ナイフが回り出し、草刈作業を始められます。  
刈高さ設定ダイヤルで刈高さを適切に設定し、両方のジョイティックで本機を操作して草刈作業を開始してください。

- 必要に応じて、刈高さ設定ダイヤルで刈高さを調節してください。



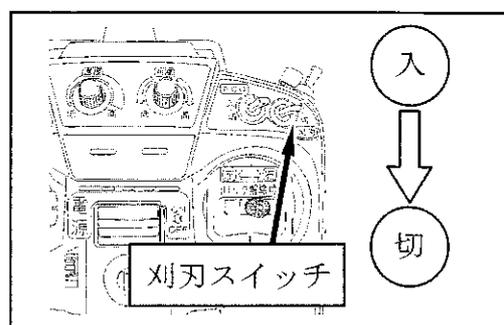
## 作業のしかた

- 草量が多く、エンジン負荷が大きい場所では、速度を落として草刈作業をするか、刈高さを高くして刈って、後からもう一度仕上げをする二度刈り等で、エンストを避けてください。

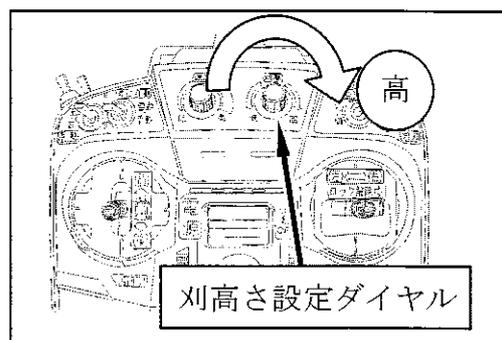
- 重要** ●本機はエンジンをかけないで電動走行ができます。燃料切れで草刈作業が中断したときは、エンジンをかけない電動走行のみで、燃料の給油を行なう場所まで移動させることができます。  
給油は、車体を水平な場所に駐車させ、必ずエンジンを停止して行なってください。

### (3) 草刈作業終了の手順

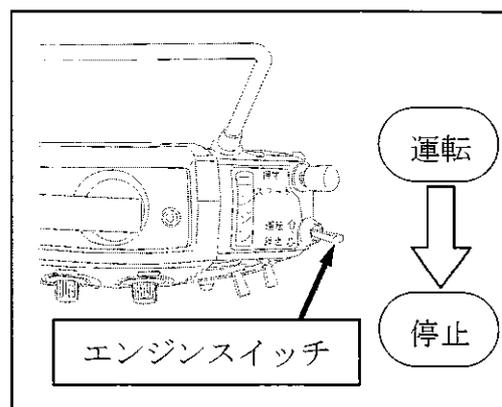
- ① 走行を停止させ、刈刃スイッチを「切」位置にします。



- ② 刈高さ設定ダイヤルで刈高さを最高に設定します。



- ③ エンジンを停止させて下さい。  
エンジンスイッチを「停止」位置にし、エンジンを停止します。



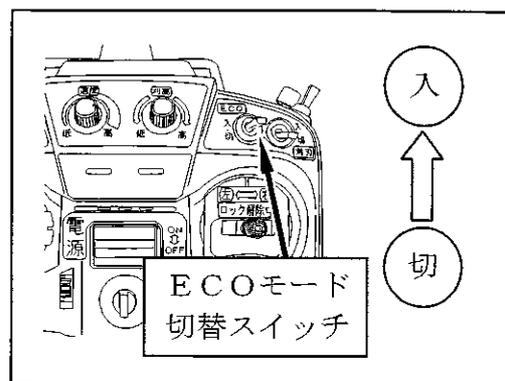
## 作業のしかた

### ■ECO（エコ）運転のしかた

ECOモードを「入」にすることで、刈刃スイッチを「切」位置にすると、エンジンも自動で停止します。草刈作業の終了と同時に、自動でエンジンを停止させることで、燃料の余分な消費を抑えることができます。

●燃費改善：本機は、当社の試験条件で11%の燃料消費削減を達成しています。

- (1) ECOモード切替スイッチを「入」にしてください。



- (2) 草刈作業終了後、刈刃スイッチを「切」にすると、ナイフの回転が停止し、エンジンも自動で停止します。

